

Bird Research Annual Report 2012

バードリサーチ活動報告



NPO法人 バードリサーチ
Japan Bird Research Association

森, 草原, 身近な場所の鳥のモニタリング

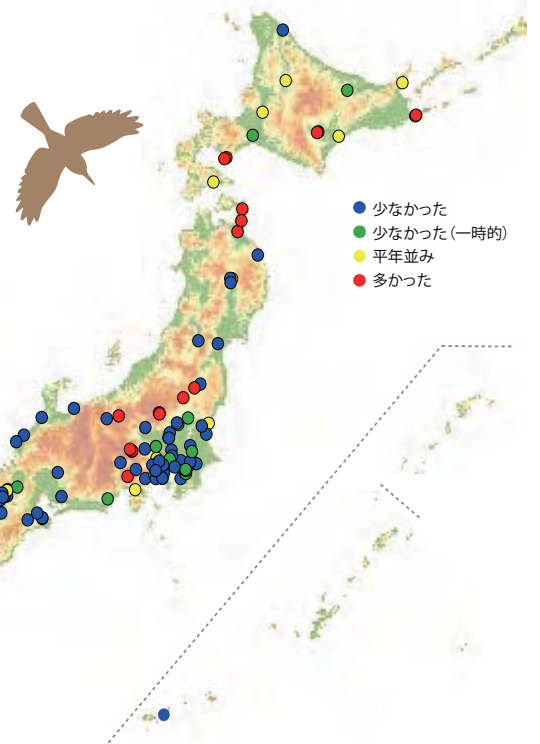
家のまわりの鳥の変化を見守る「ベランダバードウォッチ」、変化の大きい冬鳥の飛来状況を見守る「冬鳥ウォッチ」などを実施し、日本の自然環境の変化をモニタリングする環境省の「モニタリングサイト1000」の調査に協力しています。また外来鳥やサンショウクイといった分布の変化が顕著な個別の種をターゲットにした調査も実施しています。

● 暖かい地方で少なかったツグミ

昨冬はツグミが少ないことが話題になりました。各種調査の結果を集めてみると、北や標高の高い地域では逆に個体数が多かったところもあり、また、少なかったところも春先には例年並みになったとの報告もいただきました。昨冬は山の木の実が多い年で、ツグミは山からなかなか下りてこなかったのかもしれません。

BRNews 9(4), 陸生鳥類調査情報 4(1)

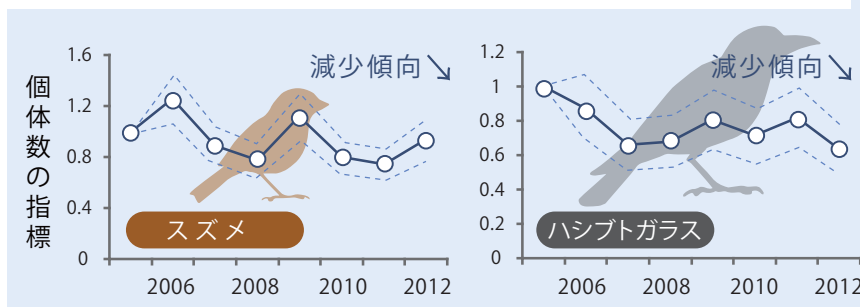
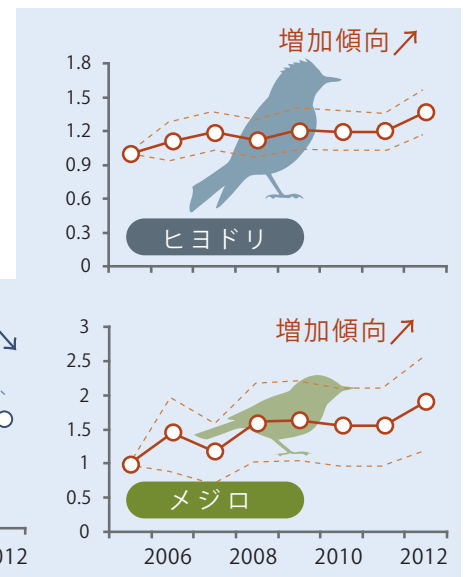
昨冬のツグミの飛来状況



● 個体数の増減がみえてきた身近な鳥

家のまわりの鳥の変化をしらべる「ベランダバードウォッチ」も8年目を迎え、増えている鳥、減っている鳥がみえてきました。2005年を1としたときの変化をみると、ヒヨドリやメジロは増加傾向にあり、スズメやハシブトガラスは減少傾向にあることがわかってきました。ヒヨドリやメジロは街路樹などの生長により環境がよくなったことが原因で増え、スズメは空き地の減少、ハシブトガラスはゴミ管理の徹底により減っているのかもしれません。その他、外来鳥の分布調査、リュウキュウサンショウクイの分布拡大の情報収集も行いました。

BRNews 8(10)



身近な鳥たちの個体数の変化

水鳥のモニタリング - 水辺の鳥を調査する -



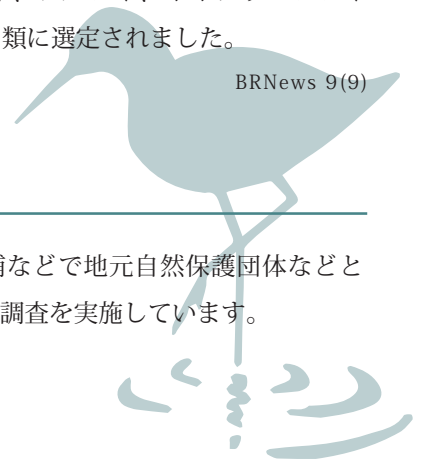
国内に渡来するガンカモ類を、湖や沼、河川などの環境指標として、シギ・チドリ類を湿地の環境指標として、モニタリングをおこなっています。また、それぞれの種に注目した調査、環境に注目した調査、初認情報、外来種の動向、個体数調査などを実施し、水鳥や生息環境の調査を実施しています。

環境省版レッドデータリストが改訂されました

40年にわたる市民調査の記録の分析により、多くのシギ・チドリ類の減少が明らかになりました。その結果、第4次レッドリストの改訂において、シロチドリ、

タマシギ、タカブシギ、ツルシギ、オオソリハシシギの5種が絶滅危惧種Ⅱ類に選定されました。

BRNews 9(9)



東北の被災した干潟のモニタリング

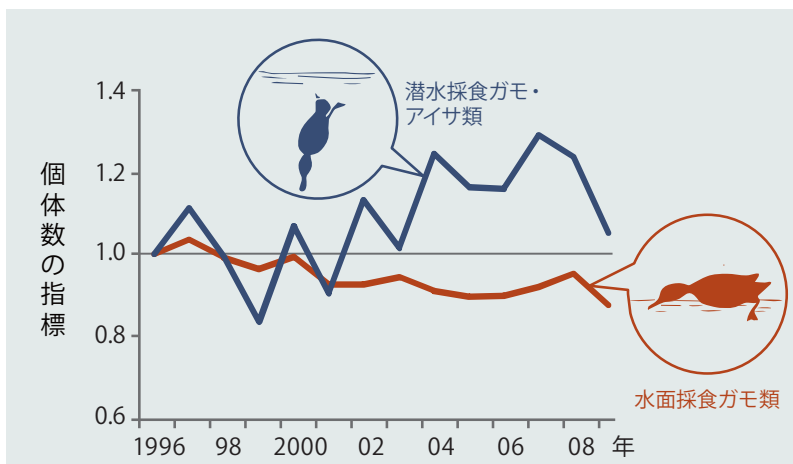
2011年3月11日に発生した東日本大震災により、東北沿岸の自然地形は大きな影響を受けました。干潟を利用する水鳥に対する影響や環境の回復をモニタリングす

るため、福島県松川浦などで地元自然保護団体などと連携してモニタリング調査を実施しています。

増えているカモと減っているカモ

毎年1月に環境省が全国で実施しているガンカモ類の生息調査の記録を分析したところ、水面採食ガモ類が減少傾向にあることが分かってきました。特に最も数が多いマガモの減少が顕著です。一方で、潜水採食ガモ類

は増加していることがわかりました。渡り性水鳥の個体数変化には、越冬地である日本の環境だけでなく、繁殖地であるロシアの環境とも関係している可能性があり、調査・保全について国際的な連携が必要です。



潜水採食ガモ・アイサ類と水面採食ガモ個体数の変化 ↑

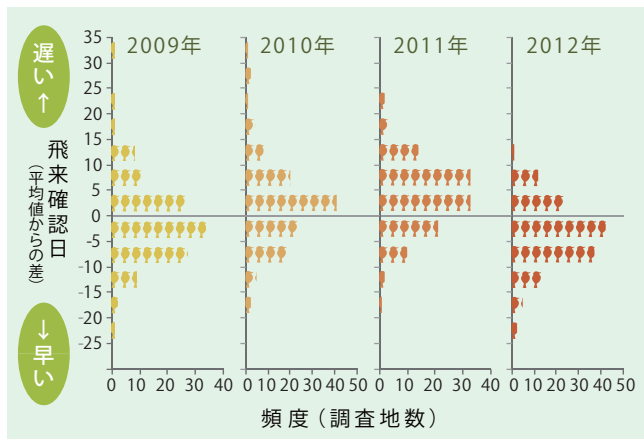


生物季節のモニタリング

気候変動により、桜の開花時期が早くなったりするなど、生物季節の乱れが心配されています。そこで全国の皆さんの協力を得て、ウグイスやヒバリの初鳴き、夏鳥や冬鳥の飛来時期、ヤマガラやツバメの繁殖時期などを記録し続けて、気候変動の鳥たちへの影響を明らかにしています。



● 今年の夏鳥飛来は平年並み



昨年は夏鳥の飛来が遅く、かつ繁殖状況も悪かったので、今年の夏鳥の飛来が心配されていました。幸いに、今年はツバメやキビタキの飛来は例年並みで安心しました。また、留鳥のヒバリやウグイスの初鳴きも平年並みでした。
BRNews 9(7)

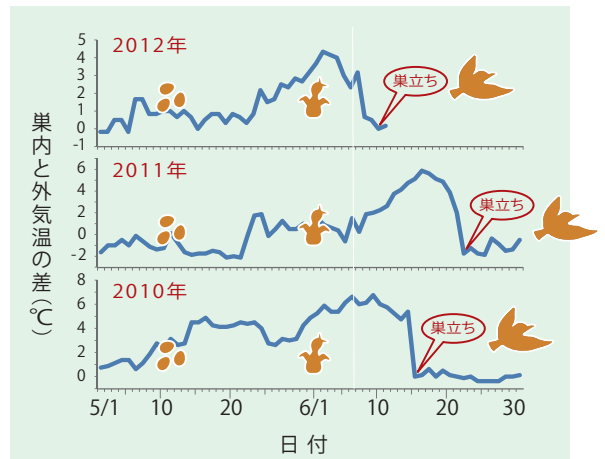
◀ キビタキの過去4年の飛来状況

● 今年の繁殖は早かった

渡り鳥の時期だけでなく、繁殖時期の変化も追っています。1つは巣に設置した温度ロガー。鳥が巣に来ると鳥の体温で温度が上がることを利用して、森林のヤマガラと低地のツバメを対象に繁殖時期の変化を記録しています。ヤマガラの調査からは、今年はこちら3年間で最も繁殖時期が早かったことがわかりました。

BRNews 9(7)

▶ ヤマガラの巣内温度ロガーの記録



● その他

ICレコーダや森林のライブ音配信を使ったさえぎり時期のモニタリングも行ない、今年の繁殖時期が早かったことがわかりました。巣箱で営巣する鳥の巣立ち時期、ミヤマガラス

の飛来時期やカモ類やシギ・チドリ類の飛来状況の変化の調査も行ないました。

鳥との共存

環境の改変により、絶滅したり急減したりした種が増えています。またその反面、一部の種は個体数を回復あるいは増加させ、人間活動との軋轢が生じ、その解消が社会的に求められています。このような問題を軽減、解消し、人間と自然が共存できる社会を構築するためには、各生物種の分布や生態といった基礎的な情報を収集して現状を把握し、有効な対策を検討していく必要があります。

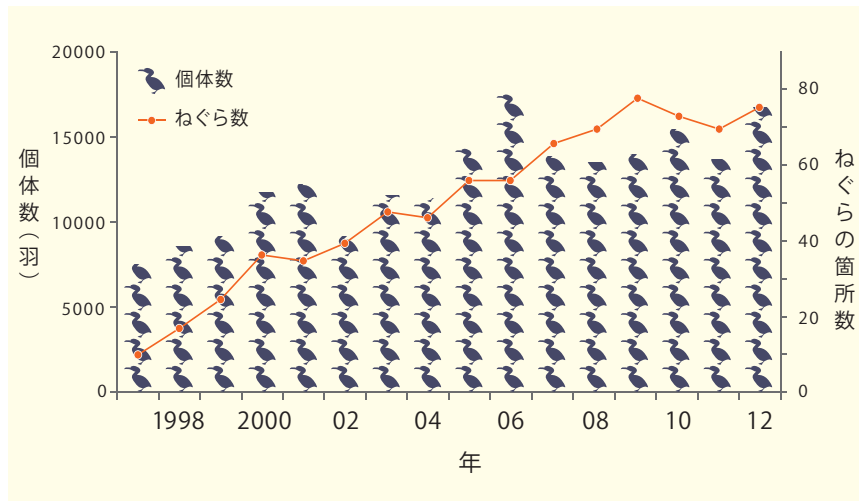


カワウとの共存



カワウは絶滅が危惧された時期もありました。その後、河川環境の改善などをうけて個体数や分布が復活してきました。しかしそれに伴い漁業や樹木枯死の被害問題が取り上げられるようになってきたのです。私たちは多くの方の協力を得て、彼らの生態や個体数などの変化を調べながら、被害を軽減するための取り組みもおこなっています。

関東地方の個体数の変化



左のグラフは1997年から2012年までの毎年3月に調べてきた関東のカワウの生息数とねぐらの箇所数の変化を示しています。この15年間に生息数は約2.2倍に、ねぐらの数は7.5倍にまで増えてきました。最近の傾向としては、規模の小さなねぐらが多くなってきたことが挙げられます。

関東のカワウの個体数とねぐら数

保護管理への取り組み

カワウは都道府県の境を越えて移動します。そのため、被害を軽減するための取り組みも地域と広域を連携させておこなう必要があります。私たちはそのような仕組みを支えるため、広域協議会や研修会を通して、対策が計画的、科学的に進むよう働きかけています。 BRNews 8(1)



現場視察(天竜川)

鳥との共存

◎ 猛禽類との共存：猛禽類保護の進め方の改定

1996年に「猛禽類保護の進め方」が環境省から発行され、それが開発にあたっての1つの指針として機能してきました。今回その後の知見を踏まえた改訂が行われました。バードリサーチは事務局としてその改訂に加わりました。



◎ つばめの駅プロジェクト

ツバメは人通りの多い街中の商店街などに巣を作りますが、自然環境の中にあるのに人の賑わいが絶えない道の駅は、ツバメにとって格好の営巣場所になっています。しかし、このような施設ではツバメの巣が迷惑がられて落とされてしまうことがあるため、ツバメに理解を求めるポスターの配布や道の駅でツバメ講座を開く活動を行いました。 BRNews 9(4), 9(7), 9(9)



◎ 風力発電と鳥との共存

エネルギー問題解決のために風力発電施設の建設が推進されていますが、陸上風力につづき、洋上風力発電が検討されています。洋上の風車が鳥にどのような影響を与えるか、日本ではほとんどわかっていません。

バードリサーチがこれまで行ってきたレーダの調査がそれに貢献できると考え、今年も調査を行ない、目視観察の難しい洋上の海鳥の動きを把握しました。

BRNews 9(7)





みんなで楽しく鳥類学

バードリサーチは、全国の鳥の生態や生息状況に興味を持って「調べてみよう！」という人たちとのネットワークを作り、わくわくするような調査や研究をみんなで一緒にできる団体でいたいと考えています。全国的な調査体制を広げていくために、この1年間に行なった活動をご報告します。

参加型調査「みにクル」と研究集会等の開催

調査の仕方を体験してもらう「みにクル」を、狭山公園と宇都宮中央公園のほか、富士山などにおいて開催しました。気軽に鳥の生態や調査の話聞ける場として、

研究例会を2012年4月にツグミについて、8月にツバメについて開催しました。また、鳥学講座として2012年1月にGIS講座を開催しました。 BRNews 9(7)

さえずりナビのリリース

野外で鳥の声を聞いたときに、その鳥がどの鳥か調べるのを助けるために、鳴き声のタイプや位置情報などから候補の鳥を絞って検索できるiPhone/iPod用アプリを電通大の笠井研究室と共同で開発しました。

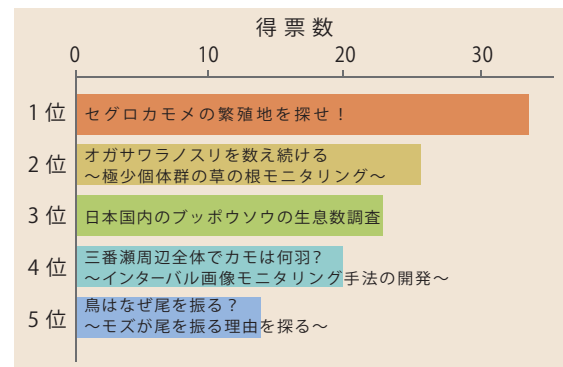
BRNews 9(1)



バードリサーチ調査研究支援プロジェクト

みなさまから少しずつの寄付を募って、それをもとに鳥類の調査や研究を行なう方に支援を行ないました。集まった寄付額は58万6千円、これらを得票数で割り振り10件の支援先に贈呈しました。 BRNews 9(1),9(3)

支援先上位5件のプラン名と得票結果 ➡



ニュースレターと研究誌の発行・書籍の出版



会員向けニュースレターを毎月発行し、概要版はホームページに公開しました。研究誌「Bird Research」第8巻には、現時点で8本の論文を掲載しています。研究員の神山が分担執筆した書籍、「田んぼの生きものたちツバメ」が農村文化協会から出版されました。

BRNews 8(12),9(2)

調査へのご協力ありがとうございました。

ここまで紹介したもの以外にも、親スズメがつれている巣立ちヒナの数
をしらべる「子雀ウォッチ」を行い、ヒナを1羽しかつれていない親が
多いことや、それが都市で顕著なことが
わかりました。



スズメ

また、キビタキやガビチョウの鳴きまねの調査や、モズやジョウビタキ
の雄雌の調査などを実施し、成果をあげることができました。

これらの調査は、皆様に参加いただくことなしにはできなかったものです。
全調査をあわせて1752名の皆様にご協力いただきました。今年の活動へ
のご協力を感謝するとともに、今後ともよろしく願いいたします。

表紙写真：ミユビシギ

STAFF



植田睦之

加藤ななえ

神山和夫

高木憲太郎

守屋年史



黒沢令子

平野敏明

三上かつら

特定非営利活動法人 バードリサーチ

〒183-0034 府中市住吉町 1-29-9

TEL/FAX 042-401-8661

E-mail: br@bird-research.jp

<http://www.bird-research.jp>

写真協力
箕輪義隆 内田 博
デザイン
いきものパレット

*この冊子は FSC 認証紙を使用しています。

